

様式第5号(教育実習実施計画に関する書類)

教 育 実 習 等 実 施 計 画	
1 教育実習等の内容及び成績評価等	
① 教育実習等の時期	4 年次 5 月～6 月
② 教育実習等の実習期間・総時間数	高等学校:2 週間(教育実習Ⅰ:60 時間)または 3 週間(教育実習Ⅰ・教育実習Ⅱ:120 時間)
③ 実習校の確保の方法	大学が指定する学校の中から、実習生が希望する実習校を選び内諾を得る。
④ 実習内容	【高等学校】 教育実習(教育実習Ⅰ)については、全授業時間 60 時間中、授業参観 10 時間以上、授業担当 7 時間以上、うち研究授業 1 時間以上、学級経営参加、学校諸行事への参加、清掃活動、部活動への参加を中心に行う。 教育実習(教育実習Ⅰ・教育実習Ⅱ)については、全授業時間 120 時間中、授業参観 20 時間以上、授業担当 15 時間以上、うち研究授業 1 時間以上、学級経営参加、学校諸行事への参加、清掃活動、部活動への参加を中心に行う。
⑤ 実習生に対する指導の方法	大学の教職センターと実習校は連携して実習態度、生徒指導、学習指導の領域を中心に指導する。教職、教科専任教員を中心に、実習期間中に巡回指導を行うこととし、授業参観、実習校の担当教諭、教育実習担当教諭、校長等管理職教員等からの聴き取り、実習生との面談を通して指導を行う。
⑥ 実習の成績評価(評価の基準及び方法)	※ 評価項目表、評価シート等がある場合は、本計画書に添付すること。 評価の基準:別添の教育実習評価票の評価項目をもとに総合的に評価する。 評価の方法:教育実習評価票、実習校の担当教諭所見、巡回指導時の所見及び教育実習手帳をもとに大学教員が評価する。
2 事前及び事後の指導の内容等	
① 時期及び時間数	事前指導:4 年次 4～5 月(10 時間) 事後指導:4 年次 7 月(8 時間)
② 内容(具体的な指導項目)	<u>事前指導</u> 1. 学習計画・学習指導(2 時間) 2. 授業目標、目標に準拠した評価(2 時間) 3. 学力向上、授業評価、授業技術(2 時間) 4. 生徒理解と生徒指導(2 時間)

5.実習直前の諸注意(2 時間)

事後指導

実習のふり返りとまとめ(学生の小集団による討議と教員による講義:8 時間)

③ 教育実習等におけるハラスメントの防止等に関する学生への指導(相談窓口の周知を含む)及び学内の相談体制等について

教育実習に係る様々な形態のハラスメント防止(加害者・被害者にならない)について、教育実習事前事後指導の中で取り扱う。また、大学として「アンチ・ハラスメント委員会」の下、ハラスメントに係る相談員を複数配置し相談窓口としている。

3 教育実習に関して連絡調整等を行う委員会・協議会等(以下「委員会等」という。)

① 大学内の各学部・学科等との連絡調整を行う委員会等

・ 委員会等の名称

教職センター会議

・ 委員会等の構成員(役職・人数など)

構成員は以下のとおり。

教職センター長 1 名

教育の基礎的理解に関する科目等の専任教員 全員

各学科の教職課程担当専任教員 各教科 1 名ずつ(英語、国語、情報、福祉、家庭)

特別支援教育に関する科目の専任教員 1 名(福祉と兼任)

養護に関する科目の専任教員 1 名

栄養に係る教育に関する科目の担当教員 1 名

教職課程を担当する事務職員 1 名

その他、必要と認めた者

・ 委員会等の運営方法

月例の会議を開催する。

【委員会の組織図】

学長—教職センター—教職センター会議

② 大学外の関係機関(例:都道府県及び市区町村教育委員会など)との連絡調整等を行う委員会等(※学校体験活動を含む場合は、大学と学校との連携体制についても記載すること。)

・ 委員会等の名称

教職センター会議

・ 委員会等の構成員(役職・人数など)

構成員は以下のとおり。

教職センター長 1名

教育の基礎的理解に関する科目等の専任教員 全員

各学科の教職課程担当専任教員 各教科 1名ずつ(英語、国語、情報、福祉、家庭)

特別支援教育に関する科目の専任教員 1名(福祉と兼任)

養護に関する科目の専任教員 1名

栄養に係る教育に関する科目の担当教員 1名

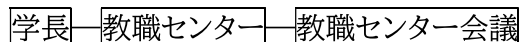
教職課程を担当する事務職員 1名

その他、必要と認めた者

・ 委員会等の運営方法

月例の会議を開催する。

【委員会の組織図】



4 教育実習の受講資格

【高等学校】

教育実習実施時において、教育の基礎的理解に関する科目等のうち、「教育実習事前事後指導」「教育実習Ⅰ」「教育実習Ⅱ」「教職実践演習(中・高)」を除く必修14単位以上を修得済であるとともに、教科及び教科の指導法に関する科目のうち、「情報科教育法Ⅰ」の単位を修得済であること。

5 実習校

教育 実習	体験 活動	学級数の合計	高等学校 71 学級
○	×	学校名	野田学園高等学校(山口県山口市野田 56) 学級数:31 学級 生徒数:764 人
		教員数	89 人 (内訳)教諭 54 人、助教諭 0 人、講師 34 人、養護教諭 1 人、養護助教諭 0 人、栄養教諭 0 人
○	×	学校名	山口県立山口高等学校(山口県山口市糸米 1 丁目 9 番 1 号) 学級数:25 学級 生徒数:885 人
		教員数	74 人 (内訳)教諭 63 人、助教諭 0 人、講師 9 人、養護教諭 2 人、養護助教諭 0 人、栄養教諭 0 人
○	×	学校名	山口県立山口中央高等学校(山口県山口市宮島町 6-1) 学級数:15 学級 生徒数:545 人
		教員数	34 人 (内訳)教諭 33 人、助教諭 0 人、講師 0 人、養護教諭 1 人、養護助教諭 0 人、栄養教諭 0 人

令和 年度教育実習評価票

山口県立大学

学部	国際文化	学籍番号	ふりがな		実習 教科	情報
学科	情報社会		氏 名			
実 習 校 名				学 校 長 名 ・ 印		
立 学校				公印		
出 席 状 況	実 習 期 間				出席日数	
	(自) 令和 年 月 日		(至) 令和 年 月 日		日	
	授業担当時間数		欠 席	遅 刻	早 退	
	時間	事故欠 日	回	回	回	
	病 欠 日					

評価項目 評価記入要領（教育実習生としての評価）

A：とても優れている B：優れている C：おおむね良好 D：やや不良 E：不良 として該当する所に○をご記入ください。

実習態度	① 諸規程を守り、積極的、意欲的に実習した。 ② 教職員や他の教育実習生に対して協調的であった。 ③ 言葉遣い、態度、礼儀、服装などが適切であった。	A・B・C・D・E
生徒指導	① 生徒の実態把握・生徒理解に努めた。 ② 個別指導及び集団指導に努めた。 ③ 積極的に生徒指導上の問題を発見して進んでその理解に努めた。	A・B・C・D・E
教科指導	① 生徒の実態を把握し、適切な指導案を作成できた。 ② 教材研究を十分に行って臨んだ。 ③ 指導方法が適切で十分であった。 ④ 生徒の学習意欲を高め、積極的に学習に取り組む態度を養うことができた。 ⑤ すべての児童・生徒を公平に接し、指導した。	A・B・C・D・E
学級指導	① 学級にとけこみ生徒を理解しようと努めた。 ② 学級経営を良く理解し、工夫に努めた。 ③ 生徒の健康・安全面への配慮が行き届いていた。	A・B・C・D・E
総合所見	所見記載者 印	総合評価 (100点満点で記入)
		点

総合評価 上記の諸項目を含め、実習全体について総合的に評価して下さい。

参考 学業成績判定基準：100～90点(秀) 89～80点(優) 79～70点(良) 69～60点(可) 59点以下(不可)

教育実習受入承諾書

山口県立大学国際文化学部情報社会学科が高等学校教諭一種免許状授与の所要資格を得させるための課程を認定された上は、本校が山口県立大学の教育実習校となることを承諾します。

令和5年10月17日

公立大学法人山口県立大学 理事長 岡 正 朗 様

野田学園高等学校長 清 水 利 宏

教育実習受入承諾書

山口県立大学国際文化学部情報社会学科が高等学校教諭一種免許状授与の所要資格を得させるための課程を認定された上は、本校が山口県立大学の教育実習校となることを承諾します。

令和5年9月27日

公立大学法人山口県立大学 理事長 岡 正 朗 様

山口県立山口高等学校長 杉 山 昌 史

教育実習受入承諾書

山口県立大学国際文化学部情報社会学科が高等学校教諭一種免許状授与の所要資格を得させるための課程を認定された上は、本校が山口県立大学の教育実習校となることを承諾します。

令和5年10月12日

公立大学法人山口県立大学 理事長 岡 正 朗 様

山口県立山口中央高等学校長 大 村 勇